

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護 (2012.11) 64巻15号:79～82.

【同一分野の認定看護師複数配置 その実践と成果】
皮膚・排泄ケア認定看護分野で複数配置の認定看護師が活躍

日野岡 蘭子, 上野 直美

事例

皮膚・排泄ケア認定看護分野で 複数配置の認定看護師が活躍



日野岡 蘭子 ● ひのおか らんこ

旭川医科大学病院看護部看護部長／
皮膚・排泄ケア認定看護師



上野 直美 ● うえの なおみ

旭川医科大学病院看護部
皮膚・排泄ケア認定看護師

旭川医科大学病院では、2人の皮膚・排泄ケア認定看護師が専従で勤務している。毎日行うカンファレンスで情報や知識を共有し、問題解決に向けたディスカッションを実施。「2人だからこそ」のメリットを提示する。

皮膚・排泄ケア認定看護師が複数 名で活動する中で見えてきたこと

日野岡 蘭子

1 当院での認定看護師の位置づけ

私の創傷・オストミー・失禁看護（現皮膚・排泄ケア、以下同）認定看護師資格取得は、2001年である。資格取得後、最優先で考えたことは、院

旭川医科大学病院の概要（2012年10月現在）

所在地：北海道旭川市緑が丘東2条1-1-1

病床数：602床

診療科数：19診療科

平均在院日数：14.8日

病床利用率：86%

看護体制：7対1

看護職員数：675人

内での認定看護師活動の周知であった。取得後3年間、病棟での副部長業務を兼務しながら、院内に向けて認定看護師とは何ができ、どう活動し、どう成果を出すのかを発信し、実績をつくることで自分の立ち位置の明確化を実践した。

2004年より専従となったが、専従となり得た背景には褥瘡対策未実施減算、さらには褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定開始が挙げられる。皮膚・排泄ケア分野では、対象患者がほぼ全部署にわたることから、組織横断的に活動することが不可欠となるため、一部署に所属するよりも専従であることでのメリットは大きい。反面、各部署でスタッフへの指導や、相談を受けてともに看護を実践するに当たり、当該部署の師長との交渉、調整能力が求められることから、管理の視点を持つことも必要であると考えた。

2 一人の時にはどのように活動していたか

当院のストーマ外来患者数は増加の一途をたどり、昨年度は1カ月平均100名である。活動内容を表1（p.80）に示す。褥瘡対策においては、実践での対スタッフ、対看護師の枠を超え、チーム

【表1】皮膚・排泄ケア認定看護師の活動内容

直接看護 (実践)	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーマ外来、病棟のストーマケア、褥瘡・創傷ケア ・病棟スタッフとともに患者教育の計画と実践
指導、相談	<ul style="list-style-type: none"> ・看護実践を通してベッドサイドでのスタッフ指導 ・各部署への分野に関する講義、指導 ・院内の教育プログラムに則るスタッフ教育への参画
自己啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・関連学会発表、参加 ・院外でのセミナー、講演
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・院内褥瘡対策チーム企画・運営 ・褥瘡リンクナース会議企画・運営 ・褥瘡発生等データ整理、報告 ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定

として活動する医師を始め他職種の職員に、褥瘡対策におけるビジョンを明確に示し、院内で活動するために、さまざまなことの決定が求められた。ケアの実践のみではなく、院内で一つのチームをまとめていくプロセスを早期から経験できたことは、その後の糧となっている。

院内での活動は多岐にわたっていたため、1日、1週間、1カ月単位で優先度を決め、必須であることから実施していたが、年度末で振り返った際に積み残しが常時ある状態であった。上司である看護部長からは、複数の認定看護師を育てると聞いていたことから、複数配置になった際に、最低限整えておかなければならない環境を考え、ストーマケア件数の多い病棟との協力体制と役割の明確化、外来看護師との関係構築、褥瘡対策における各部署の報告体制の可視化などを強化して実施した。

年々、対象患者数の増加に伴い、一人での活動に限界を感じることも多くなり、どの業務をスリム化すべきか苦悩していた。

3 2人配置されてからの活動の違いとメリット

2009年に2人目の皮膚・排泄ケア認定看護師

が認定され、2011年12月より2人専従・看護部所属で複数配置となった。役職は看護師長とスタッフナースである。2人目の認定看護師に望んだことは、経験と実績を積むことである。

ストーマ外来は2人目の認定看護師が主体で対応し、患者数が多い日は自身の裁量を考えて、私に割り振るよう依頼している。病棟からの依頼は、ストーマケアに関しては入院前から退院調整まで病棟スタッフとともに計画的に行うように指導している。

患者情報の共有のため、毎朝2人で、前日関わった患者についてカンファレンスを行い、対応が妥当であったか、今後の関わりの視点について検討している。

2人目の認定看護師はスタッフナースの立場であることから、組織横断的な活動において、各部署の師長との交渉が必要になった時には師長である私が引き継いでいる。また看護師長会議での検討が必要な事案に関する書類作成や計画立案については私が主体で実施し、皮膚・排泄ケア認定看護分野における院内全体の環境調整を行っている。直接ケアであるストーマ外来の対応を2人で分担することで、1人目の認定看護師である私は、マネジメントに割く時間の捻出が可能となった。2人目は看護実践とスタッフ指導に専念できるので、実績を積み上げ、自身の貴重なデータを残すことができると思う。

かつて、認定看護師は孤独であると言われていた。部署で相談を受けた時に、最終的な解決策を自分で出さなければいけないプレッシャーと責任が常に強くつきまとっていたが、現在は孤独ではない。チーム医療をともに実践する医療者が周囲にいることも重要だが、同じ資格を持ち、同じ視点で患者を捉えられる認定看護師が複数配置され

ていることで、ディスカッションが可能となり、解決のための選択肢が大きく広がったことを実感している。

2 人目の認定看護師としての活動

上野 直美

1 指導・サポート体制について

皮膚・排泄ケア領域は全病棟の患者を対象とする。コンサルテーション件数やストーマ外来受診患者も多く、年々増加傾向にあった。1人の皮膚・排泄ケア認定看護師の対応では、オーバーワークとなっていたのが現状であった。

皮膚・排泄ケア領域はニーズの高い分野であり、院内のスタッフ教育の強化・チーム医療・地域連携の促進、大学病院として地域貢献に取り組むという方針の下、2011年12月より2人とも専従配置となった。

同一分野の2人の認定看護師を専従配置にすることは、専門的知識を持つ看護師の多くの患者への介入を可能にし、創傷管理や褥瘡発生の予防介入によって平均在院日数の低下、外来でのストーマ処置料や在宅療養指導管理料の算定数増加につながっていると考ええる。

また、ベッドサイドでのスタッフ指導への時間の確保や病棟のニーズに応じた学習会の実施は、各部署のスタッフに、皮膚・排泄ケア領域の知識と看護の質の向上をもたらしている。認定看護師委員会主催による院内や院外への公開講座、他施設の新入スタッフ・教育担当者を対象としたセミナーも開催し、皮膚・排泄ケア領域の看護の重要性や認定看護師の役割を発信できる場となっており、チーム医療や地域連携の強化につながっていると考える。

2 複数配置で活動する上での工夫

私は主に病棟のストーマ患者ケア、ストーマ外来を担当しており、外来患者数や病棟ケア業務が多く、1人での対応が困難な時には1人目の認定看護師と2人でケアを担当している。担当する患者の振り分けは、継続した患者評価やスタッフ指導、症例経験によるスキルアップの視点で、私が実施している。2人で外来を担当することにより、待ち時間なく患者対応ができ、患者指導や相談を受ける時間を確保できるようになった。

担当した患者の情報は、毎朝、前日担当した患者のカンファレンスを実施して共有し、ケア方法や問題点の明確化、今後の方針について確認している。私にとってカンファレンスは、チーム医療のあり方や退院調整方法、局所ケアやアセスメントなど自己に不足している視点を養う機会となっている。組織横断的に活動していく中で、自己の知識や技術の向上だけではなく、医師や看護師・他職種との調整が重要で、コーディネーターとしての役割があること、コミュニケーション能力や、問題解決能力、調整能力が求められていることを実感している。

3 活動のしやすさ

専従となる前は病棟勤務であり、夜勤をしながら自部署を中心に活動していた。活動内容は、早期からの退院調整、家族のサポート体制、ストーマセルフケア指導、装具選択についてのアセスメント等、スタッフとともに看護実践をしていた。また、病棟スタッフの学習レディネスを把握し、スタッフの習熟度に応じて教育的関わりを持つことが強みであった。

専従配置以降は、入院前から退院後まで患者と関わるができるようになり、継続した評価が

可能となった。また自部署以外の疾患患者を担当したり、多職種と関わることは、違う視点でアセスメントする能力を養い、コミュニケーションスキルを学ぶ機会となっている。

院内の1人目の認定看護師は、第一に皮膚・排泄ケア認定看護師としての役割や使命を、組織や病院職員に周知するために実績をつくることが重要である。私の場合は、1人目の皮膚・排泄ケア認定看護師の実績が院内で認められており、資格取得後からスタッフや医師からのコンサルテーションも多く、スムーズに患者ケアに参加することが可能であった。今後は2人目の専従としての

アウトカムを明確化し、実績をつくっていく必要がある。

1人目の皮膚・排泄ケア認定看護師が長期研修で不在だったため、一人で専従として活動していた時期があった。自分の局所ケアの判断が正しいのか、他職種との調整方法はこれでいいのかと、孤独で不安に感じるが多かった。現在は同じ専従として2人で活動しているため、局所ケアの判断や他職種との調整方法に迷う場合は、いつでも相談できる環境にある。同じ分野に相談相手がいることは、活動していく中で私に安心感を与えてくれる。K